

ルーテル学院大学・大学院・総合人間学研究科
社会福祉学専攻・博士後期課程
博士論文審査結果の概要

社会福祉学専攻
主任教授 和田 敏 明

博士論文提出者： 04G-D007 柳原清子
論文タイトル： がん患者の家族の意思決定プロセスと構成要素の研究

＜審査結果の概要＞

1、審査委員会

上記論文が、博士（社会福祉学）の学位請求論文として、2007年 12 月 1 日に提出されたので、社会福祉学専攻教授会は、その審査のため、本学学位規定第6条の規定により、下記5名の審査委員で組織する審査委員会を設けた。

主査	教授	福 山 和 女
副査	教授	石 川 久 展
委員	教授	江 藤 直 純
外部審査委員	看護学博士	鈴 木 和 子
	(東海大学健康科学部看護学科 家族看護学教授 研究科看護学専攻教授)	
外部審査委員	医学博士	後 藤 雅 博
	(新潟大学医学部 保健学科 看護学専攻 地域・精神看護学講座)	

2、書面審査

書面審査は、提出直後から最終試験（口述試験）が行われた2008年2月2日までの2ヶ月にわたって上記5名の審査委員のよって個別に行われ、あらかじめ専攻教授会で決定していた「博士論文評価票」によってそれぞれ評価を行った。また5名の委員は別紙を用いて総合的な評価を記述された。

書面審査のよる評価は、評価表の項目については、文章のタイプミス等についてBが見られたが、そのほかの項目は殆どAであった。また総合評価は、1名の委員が「優+」3名の委員が「優」1名が「良」であった。

審査委員5名全員が参加して行われた2月2日の判定審査委員会は、全委員一致で学位申請を承認し、またその評価を「優」とすることに決定した。

3、最終試験（口述試験）

最終試験（口述試験）は、上記 5 名の審査委員に加えて、社会福祉学専攻の以下の委員が参加して、合計 8 名の試験委員によって行われた。

教授 市 川 一 宏 （学長）

教授 増 野 肇

教授 和 田 敏 明

口述試験は、学会発表の形式を取って行われた。すなわち、学位請求者は、論文の内容について、学会の講演と同様に、パワーポイントを使って発表し、終了後、試験委員の質問に回答した。また一部の委員は質問とあわせてコメントを行った。いずれの質問コメントも、論文についての重大な問題点を指摘するものではなく、細部についての疑問をたどすような内容か、もしくは論文の内容をよりよくするための修正、加筆の提案であった。

各試験委員の評価は、あらかじめ社会福祉学専攻教授会が決定していた口述試験評価票によって行われた。評価の結果は、全試験委員が、全項目について、「優」又は「優+」の評価であり、また、総合評価も全員が「優」、または「優+」であった。

試験委員全員による最終試験の判定合議は、上記審査委員会による判定結果が専攻主任から報告された後、口述試験についての各委員の評価結果が報告され、その後判定のための合議が行われ、全員一致で、柳原氏の学位申請を承認し、その評価は「優」とすることに決定した。

（以上）